

(別紙様式3)

令和6年度あいちラーニング推進事業研究報告書【主管校】

学校番号 34

学校名 愛知県立旭野 高等学校

校長氏名 杉浦義之

研究責任者職・氏名	教務主任・塩屋雄一	事務担当者職・氏名	主事・寺西尚久
研究 テーマ	探究的な学習の礎となる「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究		
本年度の 研究目標	(1)「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の模索 (2)「主体的・対話的で深い学び」を推進する授業実践		
研 究 の 実 施 内 容			
実施月日	内 容		備 考 (対象生徒等)
令和6年			
4月30日	推進事業校内委員会（教科主任会）にて研究計画の概要説明		
5月15日	あいちラーニング推進事業説明会参加		本校の該当教員
5月28日	推進事業校内委員会（教科主任会）にて、説明会を受けての研究計画の概要説明		本校の該当教員
6月4日	推進事業校内委員会（教科主任会）にて、校長より研究テーマの指針発表		本校の該当教員
6月13日	職員会議にて校長より研究テーマの指針発表		
6月18日	推進事業校内委員会（教科主任会）にて研究テーマの決定		本校の該当教員
6月20日	職員会議にて全職員に研究テーマの報告及び周知		
6月21日	第1回尾東地区連絡協議会 主管校・重点校7校より今年度の研究テーマ及び取組概要・研究計画等の確認		主管校・重点校の 該当教員
6月28日	研究計画書の提出		
8月19日	あいちラーニング推進事業に係る講演会（本校開催、28名参加）【別紙①】 「高校生とともに行う地域創生 ～合同フィールドワークの実践～」 名古屋外国語大学 世界共生学部 地田徹朗 准教授 北海道白老東高校 教諭 志田 健（＊オンラインによる報告） 名古屋外国語大学 地域教育推進センター 大石益美 教授		主管校・重点校の 該当教員
10月上旬	重点校7校の公開授業及び研究協議（～3月中旬）【別紙⑤】 10月18日長久手、11月1日瀬戸工科、11月13日春日井東 11月15日瀬戸北総合、12月9日春日井泉、3月12日春日井工科		主管校・重点校の 該当教員
11月上旬 11月8日	各教科会にて公開授業に向けた授業づくり依頼 先進校への訪問【別紙②】 京都市立堀川高校第26回教育研究大会への参加（80校140名参加） 研究大会テーマ「適切な自己評価、自己分析をし、行動に移すことができる生徒の育成」		本校の該当教員

11月12日	公開授業と研究授業参加、教科別分科会と全体会参加（本校開催、15名参加）【別紙③】 ・研究目的：探究学習の前段階として、各教科・科目の「見方・考え方」を働かせた深い学びを授業において実践する。 ・保健・数学Ⅰ・生物基礎の公開授業及び研究協議会の実施 ・助言者：愛知県教育委員会高等学校教育課 教科・定通指導グループ 渡辺 純 指導主事 愛知県総合教育センター研修部企画研修室 新 正司 研究指導主事	主管校・重点校の 該当教員
11月29日	第2回尾東地区連絡協議会（オンライン開催） 各重点校7校より今年度の取組状況・課題等の確認と情報共有 ＊適宜、推進事業校内委員会（教科主任会）にて講演会等の報告	主管校・重点校の 該当教員
12月22日	先進プロジェクトへの出席【別紙④】 東京学芸大学探究プロジェクト「探究の共創 in winter 2024」 東京学芸大学教育学研究科 西村圭一 教授	主管校の該当教員
令和7年 3月14日	重点校の研究報告書の主管校への提出	重点校の該当教員
3月18日	振り返り及び次年度以降の目標を協議	本校の該当教員
3月24日	主管校の研究報告書の提出	主管校の該当教員

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

本年度あいちラーニング推進事業の主管校指定を受けたことにより、本校では主体的・対話的な深い学びに繋がる授業実践について真摯に検討することができたのは大きな成果である。また、学校長のリーダーシップの下に、本校で整備があまり進んでいない「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関して研究目標を設定することができた。しかし、今年度はこの評価の研究まで到達することはできず、探究学習の前段階として探究的な学習に資する「各教科・科目の見方・考え方」を働かせた深い学びを授業において実践した。

また、カリキュラム変更を検討する教育課程委員会が度々開催されたため、予定していた校内研修①(teams やロイロノート等)と校内研修②(「主体的に学習に取り組む態度」の評価について)の実施はできなかった。しかし、この推進事業を進めていく中で、ただ単に ICT を授業で利用し目的とするのではなく、手段としてより効果的な活用方法を教員間で検討することができた。そして、各教科で teams やロイロノート等の利用が進み、アンケート調査・オンライン研修・土曜学習会の講座選択など学校の教育現場の様々な場面でも ICT が利活用されるようになった。

さらに、各重点校の連絡協議に参加したり先進校へ訪問したりすることにより、重点校の課題や各校の ICT 利用状況を知り先進的な取組を体験することができた。また、その際に本校の取組や課題についても発信することができた。そして、推進事業校内委員会である教科主任会で情報共有することによって、深い学びに繋がる授業実践やより効果的な ICT 利用についてさらに検討することができた。

※ 本研究報告書は、令和7年3月24日までに teams にアップロードする。